

視能訓練士学科（昼間部 1 年制）

養成目的

昭和 46 年に視能訓練士法が制定されて以来、視能訓練士は主に小児の斜視・弱視の検査・訓練・治療を中心に、大学病院や国公立病院・総合病院において活躍してきた。高齢化社会の現代、眼科における受診者の数は増加傾向にあり、またパソコンやゲームなどの使用により、現代人ならではの眼の病気も増えてきており、業務内容は変化している。特に眼科器機の開発にはめざましいものがあり、それに伴う視能訓練士の新たな知識や技術が必要とされている。また、コンピューターシステムの導入など職場環境も大きく変化しており、常に新しい変化に対応できる視能訓練士が求められている。したがって、従来の斜視・弱視の検査訓練に加え、眼疾患全般に対応できる治療・診断のための的確な検査ができる視能訓練士に対するニーズは高まっている。さらに中途視覚障害者リハビリテーション領域でも期待され、活躍の場は大病院ばかりではなく、地域に密着した眼科診療所へも拡大している。

本学科は、全国でも数少ない全日制 1 年という養成課程であり、実学教育に重点を置き、出身校である短期大学・大学や看護師・保育士等を養成する学校で習得した知識・教養や社会経験をベースに、限られた時間を最大に活かし、業界ニーズに応え得る視能訓練士を養成することを目的とする。

学年(学期) 目標

前期	知識：専門職としての基礎的分野（解剖学・光学・視覚生理学・疾病学・視能矯正学）を解剖・病態・検査・治療・訓練など体系的に習得する。 態度：グループワークや体験型授業を通じて、自らの意見を表現する力を育成する。 技能：基礎知識に基づき、基本的な検査手技と説明力を身につける。
後期	知識：臨地実習を通して、科学的根拠に基づいた思考力を身につけ、検査結果の相関性を考察できる。国家試験対策授業を通じて、総合的に理解する力を習得する。 態度：視能訓練士の立場を理解し、患者に適切な対応ができる力を養う。 専門職としての向上心・探求心をもち、自己研鑽する姿勢を身につける。 技能：臨地実習を通して、患者個々に応じた検査手技と説明力を身につける。

取得目標資格

視能訓練士（国家資格）（卒業時に受験資格取得）

就職分野

大学病院、国公立病院、総合病院、一般病院、眼科専門病院、眼科医院

職 種

視能訓練士